

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年11月21日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300393
法人名	社会福祉法人 恵仁会
事業所名	グループホーム ふれあい
所在地	鹿児島県鹿屋市下祓川町1805番地 (電話) 0994-40-2588
自己評価作成日	平成29年10月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成29年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体の特別養護老人ホーム鹿屋長寿園や、隣接する池田病院・鹿屋訪問看護ステーションとの連携を図りながら運営しているため、緊急時の安心感があり、入所申し込みも多い。近くには畑もあり、季節の野菜を楽しんだり、桜の時期は花見を楽しむ桜もたくさん植えられている。時にはその下で食事を楽しんだりしている。蛍の時期は蛍見学もできる環境にある。法人は職員教育にも力を入れているため、いろいろな研修会に参加することで、ケアの質を高める努力を行っている。また、実習生を多く受け入れ、時には実習生より学ぶこともある。職員不足は否めないが、少ない人数でも連携を図ることで、利用者の変化に対応できるように記録等を工夫している。そのため最後まで暮らし続けたいと、希望される家族が多い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは特別養護老人ホームに隣接して建てられている。同一敷地内にグループの医療機関・有料老人ホーム・介護老人保健施設・訪問看護ステーション等があり、24時間の医療連携が構築されている。
- ・自治会に加入し、地域の清掃活動に参加している。公民館で地域老人会と交流会を実施したり、毎月のサロンに参加することもある。看護学生・小中学生・市職員・介護職の研修受け入れや老人会の要請で講師として出向く等、地域との交流・地域貢献に取り組んでいる。
- ・職員の外部研修受講を勧めており、研修で学んだことや職員が提案したことはすぐに日常のケアに取り入れる等、職員の質及びケアの向上に積極的に取り組んでおり職員の離職は少ない。
- ・地域に出向いて認知症・感染症・レクリエーション・福祉に関する相談等を法人内で対応できる体制もある。
- ・災害訓練の時は、地域の人にも来てもらい年2回の訓練をしている。母体法人の特別養護老人ホーム職員の参加協力もある。自動通報装置に老人保健施設にもつながるようになっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は当初より変わらないが、その理念の上に、地域を大切にしながら、運営できている。	法人内共通の理念を玄関に掲示している。毎月のミーティングでケアの振り返りを行い、理念に沿った実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は近所の方が歩いてくるには少し距離があるが、町内会の一員として奉仕作業等には積極的に参加している。	町内会の清掃活動やサロンに参加したり、サロンの会場で福祉相談を受けたりしている。老人会との合同忘年会を開催し地域との交流を図っている。老人会の研修講師や多数の実習受け入れ等、地域貢献にも積極的に取り組んでいる。近所からの野菜などの差し入れもある	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域のサロン活動には積極的に参加している。その中で困りごとに関して、相談を受けることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は地域の方が中心になり参加いただいている。その職歴から、介護に関する意見やアドバイスをいただくことも多く、活発な意見が多い。</p>	<p>定期的に運営推進会議が行われ事業所の状況報告や外部評価の報告・ヒヤリハットを含めた状況報告を行い、意見交換を行っている。介護についての意見交換が活発に行われ、ホームの実情の理解を深めてもらえる機会となっている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>毎回の運営推進会議には鹿屋市の職員の出席を頂きながら、意見交換が出来ている。毎月の報告事項も決められており、決められた項目についての意見交換も行われている。</p>	<p>市の担当者とは書類の提出時や電話で相談をしている。市主催の研修に参加している。毎年、市の職員が職場に研修にきている。運営推進会議に参加してもらい情報や意見交換をしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>夜勤帯を除き、玄関の鍵は空いている。身体拘束に関しては毎月のミーティングに於いて、勉強会を行っている。</p>	<p>法人で身体拘束廃止委員会があり、マニュアル等に添って、毎月ミーティングなどで事例を出して話し合いを行い確認や振り返りを行っている。言葉に関して特に力を入れて取り組んでいる。日中は玄関の施錠はせず職員の見守りや散歩等で制限のない生活を支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている。	運営推進会議等の中でも、鹿屋市から話題を提供されることもあるが、身体拘束と同様、毎月のミーティングの中で学ぶ機会を設けている。新聞等から抜粋して、教材とするときもある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	高齢者虐待と同様、成年後見制度のことも鹿屋市から指導もある。地域包括支援センターが、中心になり研修会を開催してくれているが、現在利用されている方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の際は契約書の説明を行い入居していただいている。また、利用料金等の変更の際は家族会を開催し、説明と同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族等の意見は特にないが、家族とのコミュニケーションは大切にしている。面会時は利用者様が何を言われていたかをお聞きし、援助に反映することもある。	利用者からは日常の中で要望を問いかけ反応を見たり聞いたりしている。家族からは家族会が年2回あり、事業所の報告をしたり、運営推進会議や面会時に、職員から声かけして現状報告を行うと共に要望等を聞いている。毎月、手紙を各家族に送って話をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日常的に職員からの意見は法人全体の会議の中で提案するようにしている。</p>	<p>管理者は、月1回のミーティングで職員の意見を聞く他、日頃から、職員の提案や研修の成果をすぐに反映させている。提案を受けて、青空オレンジカフェの開催を計画している。自己評価が年2回あり、管理者と面談をしたり、話しやすい環境作りをしている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>年に2回は自己評価の提出をして頂き、面接することで、職員の意見を引き出している。職員はその能力により、昇給・昇格をしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の能力により積極的に研修に参加していただいている。また、介護福祉士取得のための実務者研修に参加する職員のために休み等の調整も行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者は大隅地区介護事業所連絡協議会の役職を担っており、多くの研修会も開催している。そのために職員は研修環境は恵まれており、質の向上に繋がっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者にはグループホームの特性の説明を行い、納得の上入居して頂いている。本人の生活歴や性格に配慮したレイアウトを行い、なじみの家具は持参して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される時はアセスメントを充分行い、本人、家族の要望に添えるように話あっている。慣れるまでは十分観察を行い、介助の方法を編み出している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向をお聞きしながら援助している。その時の状況により、必要な支援を見つけ納得いかれるケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は模擬の家族である事から、その人の能力に応じたお手伝いを頂くことで、生活の張りを感じて頂くように支援している。現在重度化が進みほんの一部の人しか適応できない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は職員の動きに関心を持たれ、自らボランティアをしてくださる家族も多い。利用者は認知症で面会に来られてもすぐに忘れられることから、来宅時は写真を撮り居室に飾っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望によっては外出したり、来て頂いたりしている。その方が大切にしてきた人間関係は大切にし、お茶等でおもてなししている。	家族の協力を得て自宅訪問や自宅周辺に行ったり、親戚・知人等が医療機関の受診の帰りに立ち寄ることが多く、これまでの生活や人間関係を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症になるとより明確に性格が表れる。性格が合わない人もいるので席はその時の状況で変更することがある。職員は気付きを大切にしながら優しく接している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ふれあいで生活された方はほとんどが最期まで過ごされる。家族にも寄り添いながら相談にも乗り、最後まで安心して頂けるように、援助している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護保険の切り替え時や病状の変化、または本人の思いをお聞きしたときは家族に相談しながら援助している。自分で思いを表現できない方に関してはその表情から察した援助を行っている。	利用者の思いや意向は、日常生活の中で言葉やしぐさ・表情等で汲み取るように努力している。意思表示の困難な場合は表情・仕草から本人の思いを把握するように努めている。家族に面談の時や電話で毎月の便りのことや受診の報告などの時、担当者会議を開く時など意向の把握をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時はアセスメントを行い、その人の生きてこられた過程の把握に努めその生活歴や環境を援助に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は体力により異なる。無理の無い様に。しかし、お元気な方に対しては散歩や歩行訓練をして頂いている。職員はその人の能力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成に当たり本人・家族・職員の意見を吸い上げている。その意向に耳を傾けながら、自立支援とパーソンセンタードケアに努めている。毎月のミーティングを利用し、モニタリングしている。	家族の面会時に担当者会議を実施し、本人・家族の要望及び職員の意見を入れて介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、6ヶ月毎及び状況変化時に計画の見直しをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>記録は重要と考える。変化や気付きを大切に記録に残している。口頭での引継ぎが十分に出来ないことから、記録を見るとその状態がわかる仕組みをとっている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者は状態が少しずつ変化している。状態変化時は医師や訪問看護師、栄養士、介護用品を取り扱う人たちのアドバイスを受け、相談することで本人の苦痛を和らげる援助を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の行事や法人の行事を大切にしながら楽しみごとを作っている。地域の行事に積極的に参加しているがバリアフリーでないところへは出かけるのが困難である。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族の希望で病院受診も行っている。しかし、家族は病院受診に便利なので池田病院へ変わる人が多い。皮膚科等は家族の希望する病院受診を行っている。</p>	<p>本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。隣接協力医療機関と24時間の医療連携を築いており、週1回の訪問看護師による健康管理も実施している。状況変化時等の往診も行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日ごろから訪問看護師にお世話になっている為、何か病状的に不安なことがあると訪問看護師に電話で相談できる環境にある。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>隣に病院があり、看護師とも気軽に相談できる環境である。入院されても毎日訪問できる環境ではあるが一年間入院された方はいない。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ターミナルケアを実施しているために、常日頃から知識を身に着けることができるように研修等にも順に参加していただいている。家族とは入所時より終末期に向けた話し合いは行っているがその時その時で家族の気持ちに変化があるので十分な話し合いを行っている。</p>	<p>契約時に重度化等の場合の対応について説明している。重度化等の場合は主治医から病状説明を行い、家族の意向を確認しながら支援に取り組んでいる。家族会で終末期についての話をしている。看取り介護の実績がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>利用者の状態は常に職員で連携しながら把握に努めているが、とっさの時はすぐに行動ができるようにミーティングを利用しながら応急処置の初期対応の訓練を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災避難誘導訓練は地域の方を交え訓練している。また、地域の方の協力で炊き出し訓練も行った。水害に備え母体の鹿屋長寿園への避難経路を設置する予定である。</p>	<p>年1回は夜間想定で消防署立ち会いの避難訓練を実施し、1回は昼想定自主訓練を行っている。地域住民及び母体法人の特別養護老人ホーム職員の参加協力もある。地域の協力を得て炊き出し訓練も実施した。災害時の備蓄は水・缶詰・カップ麺・ご飯等を準備している。自動通報装置に老人保健施設にもつながるようになっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>認知症の方は皆さん社会的に活躍された方なので、職員は先輩として敬いながら接している。相手のプライドを損ねることがどれ程ケアにダメージを与えるかを職員は理解している。</p>	<p>研修会を実施し、プライドを傷つけない言葉づかいに気をつけている。入室時には必ず声掛けしている。言葉や名前の呼びかけは、特に気をつけるように「さん」づけをしている。トイレにのれんをかけてプライバシー保護をする等、事例を出して話し合いをしている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者の思いは職員の連携ですぐに把握できる。がれがどんな思いをしているかを報告していただくことですぐに対策を立てられるが自分の思いを伝えられる方が少なくなっている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかな一日の流れはあるがその人の体調や精神状態に合わせた援助を行っている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>常に清潔に保てることを第一に援助しているが時には本人の意見をお聞きし、買い物に行き、おしゃれのお手伝いも行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの一つであることから、季節・旬を大切にしながら、出来る方には料理のお手伝いもいただいている。	献立は職員が作成している。刻みやミキサー食等、それぞれの食事形態で提供し、個々の力に応じた手伝いや食事を職員と一緒にしている。誕生会は好きな物を準備したり、季節の行事食の提供や手作り弁当持参で外出する等、食べる楽しみに取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は必要栄養を頭に入れながら料理している。一人一人の状態を把握し、水分が入らない時は好みの飲み物で対応するときもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの大切さを認識している。1日3回の口腔ケアは欠かせない。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員はそれぞれの利用者の排泄パターンを理解し、おむつが自己負担であることから、定期的に声掛けやその人の行動を把握することで排泄失敗の回避に努めている。	個々の排泄パターンを把握し、日中は見守りやトイレ誘導でトイレでの排泄を支援している。終日オムツ使用の場合も日中はポータブルトイレに誘導する等、オムツ交換回数の減少を図っている。失敗を防ぐ為に早めにしぐさなどで察知して、できるだけ周りに気づかれないようにトイレ誘導をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の多くは便秘のため、お茶や飲み物を工夫したり死ながら水分補給に努めている。歩行される方に関しては散歩したり、歩行不安定な方は運動していただいている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は全利用者の楽しみの一つであるが午前中は散歩や機能訓練があることから特別な理由がない限り午後浴になっている。	週3回午後入浴を基本にしており、必要に応じて2人介助やリフトを利用して入浴を楽しんでいる。のんびりとゆっくり入れるようにしている。入浴剤を入れたり楽しい会話でリラックスできるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者は毎日午後昼寝をされている。夜間の安眠を誘うために天気の良い日は散歩に出かけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は担当医師の処方に基づき援助している。薬等の変更に関しては連絡帳を利用し職員への周知を行っている。新しい薬に関してはインターネット等で調べ効果や副作用を勉強している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者の生活歴や趣味をお聞きし援助しているが外出等も重度化のために減っている。その人の身体的・精神的状況によりベッドで過ごされる方が多くなっている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>車いすの方が増え、車での外出が減っている。マンツーマンでないと外出できないことから家族の応援を頂きながら外出している。</p>	<p>基本的に毎日、敷地内や近所の散歩に出かけたりしている。家族の介助で散歩する利用者もいる。ホーム行事での外出は、法人の特別養護老人ホーム職員の応援を得て、花見やミカン狩り等、年2～3回実施している。幼稚園も敷地内にあるので遊んでいる。昼の弁当を持って特殊車両を老人保健施設から借りて車椅子の利用者も外出している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者はお金に関心を示されない方が多くなっている。買い物に出かけ、自分でお金を払っていただく方はわずかであるが嬉しそうな表情をされている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族から電話が来たときは「お母様にかわりましたか？」と変わることはある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の多くはベッドで過ごされるために、居間で過ごされる方が季節感を味わえるように、ボランティアの方がタペストリを飾ってくださっている。	ホールは全体的に広くて明るく天井も高い。季節感が出る飾り付けや行事の写真が壁に飾られている。台所は見えるところになり五感を刺激できる構造になっている。一段高い作業スペースもある。中庭からの明かりや室温等が調節されて過ごしやすく、ソファも置かれテレビを見ながらくつろげるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファを置きくつろげるようにしている。時にはゆっくり座ったり、そこで昼寝をして過ごされることもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを持参していただいている。本人の安全に配慮したレイアウトになっている。	居室はベッドとタンス・洗面スペースがある。自宅から持ち込んだ馴染みの小物やテレビ・ソファを置いたり、家族写真・位牌等を飾り安心して過ごせるようにしている。ベッドからの転倒防止の為、畳を置き布団を敷く等、利用者の状況に応じた工夫をしている。タンスの衣替えなど家族の協力を貰って行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや非常口はそれぞれ表示がある。利用者はその身体能力によりポータブルトイレや介護用品を駆使することでできることに配慮した生活の支援を行っている		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない